


山都町立矢部小学校 学校だより

自分らしく ~Be Unique~

矢部小HP

令和6年5月20日(月)

第8号

2次元コード ← カラー閲覧できます 校長 池部 聖吾智 (みわとも)

話し上手入門

今年度、本校では他者を意識して表現する力をつけさせるための授業研究に取り組みをしています。

広島県安芸高田市長の石丸伸二氏は言います。「1000話したいなら10000準備する」これに凝縮する過程を通じ、初めて話の要点をつかめるという理由からだそうです。

また、「知識の引き出しをたくさん持ち、かつ本質的なエッセンスを理解できていれば、誰に何を聞かれても返せるようになる」とも言っています。

さらに、「自分が話す姿を録画し、客観的に見てみる」ことも勧められています。自分の姿や声を聴いたりするのは抵抗がある作業ですが、「他から見えていない自分の姿」を、改善する得ない状況に追い込まざるを得ない状況に追い込まれます。子どもたちはタブレットを使って動画撮影もできるのです。※「PRESID」用で、振り返りや改善に活用できそうです。

ENT2023.12.1号「石丸氏の言葉を一部引用しました。

人権ワークショップ ~まずは、校長が「解放されている」こと~



17日はご来校ありがとうございました。授業参観後の人権ワークショップでは、初の保護者向け「こ・ん・に・ち・は~」をやりました(左写真参照)。「何人かは返してくれるだろう」と期待したのですが、リアクションゼロ・数秒間の沈黙時間でチーン(>_<) 私の話の後には教頭先生が「自分を語り」ました。

実はこの流れには意図がありました。キーワードは「解放」です。本校でまず「解放」された姿を示すのは校長だと考え、自身を語り、「こ・ん・に・ち・は~」もしました。教頭先生は、その意図を汲み自身の事を語りました。人権教育は「自分を語る」「差別に気づく」「差別をなくす」「自分らしく生きていく(解放される)」ための営みだと考えます。25日の「5. 23集会」ぜひ参加してみませんか!

矢部抄

先日放映されたTBS「水曜日のダウンタウン」で「校長の先生の名前、意外と知らない」説の検証があった

▼当該校長は、「子どもたちは、せめて苗字くらいは知ってるでしょう」と自信満々だったが、知らない児童が多かったというオチだった▼校長・教頭は名前だけでなく「校長先生」「教頭先生」で呼ぶので私は逆に「覚えてもらってない」という認識だ。だからこそ、名前を覚えてもらうための策を打ったのだ▼校長室入室の条件「校長先生の名前をフルネームで言いなさい」は効果できめ込んだ。おそらく、1年生も含め8割以上の児童はフルネームで言えると思う▼先週「わたなべみわとも」先生とやってきた1年生の子がいた。

「『みわとも』だけはシッカリ覚えてるんだなあ。」と感心した。名前が珍しいと、いつまでも覚えてもらえらるというのはいくらも経験でわかっている